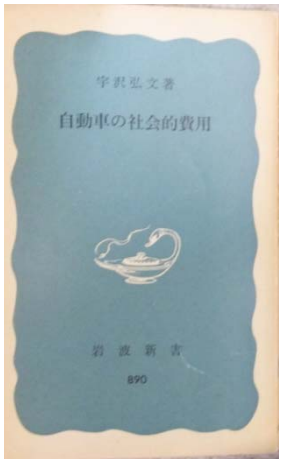
追悼・宇沢弘文先生

東京大学名誉教授で世界的な経済学者の宇沢弘文先生が逝去された。86 歳だった。写真は朝日新聞 9 月 26 日夕刊 1 面である。ノーベル経済学賞の候補としても長年、名前が挙がり続けた。期待していたのに残念である。

宇沢弘文さん死去
理論経済学者 環境問題を啓発

『エコノミスト』10 月 14 号は「緊急特集追悼・宇沢弘文さん」を次の見出しで掲載している。

宇沢さんは米スタンフォード大、シカゴ大などで数理経済学を研究。帰国直後に本誌 1969 年 12 月 23 日号に「資本自由化と国民経済―競争原理をめぐる理論的な検討」を寄稿した。その後は市場原理を優先する現代新古典派理論に否定的な立場をとり、70 年 9 月 8 日号での「自動車政策は間違っている」で、自動車政策を痛烈に批判した。この原稿の内容は 74 年に出版され、古典的名著とされる『自動車の社会的費用』(岩波新書)にもつながった。以後もたびたび本誌に寄稿し、格差社会や環境問題など社会問題に精力的に取り組んだ。今回、宇沢弘文さんをしのび 70 年の「自動車政策は間違っている」を再掲載する。



74 年刊行の『自動車の社会的費用』は何回も読んだが、この復刻論文は記憶がない。「社会資本をタダで使う」という小見出しのところが示唆に富む。

「自動車の場合、とくに消費の面で大きな社会的コストを払わなければいけない。そういう意味で、環境破壊的な産業である。そのような産業を保護し、育成してきたのは、けっきょく環境はタダである、社会共通のもので、私的な企業の費用のなかには組み入れられないという考え方に基づいた政策であるともいえる。このような考え方はなにも自動車に限らず、日本の経済政策あるいは産業政策一般についても、その背後にある考え方である。つまり、企業の私的な利潤計算を中心にしてすべてが考えられ、国民経済の構成員の実質的な生活水準、あるいは消費者の生活水準ということを無視してきた考え方である。」

拙著『公共事業と財政』においても、宇沢弘文先生の代表的な理論を紹介させてもらった。先生の「社会的共通資本論は、市場機構への信奉が強い新古典派理論に対する批判として展開され、『市場の失敗』へのアンチテーゼとして提起された。市場機構にかわる社会的基準、社会的価値判断をどう評価し、決定していくかが社会資本論の重要な課題である。」社会資本論を発展させるうえでも、「社会的共通資本論」をはじめとして、宇沢弘文先生から学ぶことは多い。

(2014 年 10 月 16 日)